

一家督初而御目見、隱居分地、官位加階、死去并歳、次男、厄介、家來等、新知被召出候儀、

一御名代、御使、御手傳、其外廉立候御用、

一滅知、御役御免、其外御咎等之儀、

右之分、年月日委細ニ認候事、

右之外其邸宅御成等之儀、又は格別なる拜領物御譽等、不依何事其家々之美目に存候儀は認可申事、

但御門番、火之番等通例之儀は認に不及、事繁不相成様に、緊要之儀計簡易に認可申候、
此御書付取調之上、此部中江可認入候、

〔一話一言十七〕系圖調

年々拾五枚

同

同

御書院番水谷伊勢守組

御小性組石川燈岐守組一郎養父

新御番小野飛驒守組

小普請組渡部平十郎支配

同戸田中務組支配八郎

御持頭宅間與左衛門組

屋代太郎養子

小田又藏

五人扶持

三人扶持

三人扶持

右寛永以來、系圖調御用書物相勤候様可被申渡候旨、御書付を以堀田攝津守殿被仰渡、頭々宅において申渡候由、

未三月廿六日寛政十一年也

〔大江俊光記〕元祿十三年八月廿四日、日向渡、山城肥前下總三番頭より、日向へ文、近衛殿諸大夫家